

第2回



株式会社淀川螺旋管製作所

会社プロフィール

株式会社淀川螺旋管製作所
(YODOGAWA RASENKAN MFG.CO.,LTD)
営業部部長 野間口大介 主任グエンフィチュオン

本社
〒555-0001 大阪市西淀川区佃4-10-15
TEL: 06(6475)2102(代表) FAX: 06(6475)2105
ベトナム工場
B1/001 Nguyen Hue1 Quang Trung Thong Nhat Dong Nai
TEL: +84-0613-765440



<http://www.flexible.co.jp>

淀川螺旋管製作所は、環境に優しい製品、災害に強い建築配管やプラント配管などに対応し、単なる配管接続の継手から本来の柔軟性を重視した配管ライン(ステンレス製フレキシブルチューブ各種、ステンレス製伸縮管継手各種など)の製品を供給してきた。ステンレス製フレキシブルメタルホースは優れた環境特性、経年変化しにくい特長を備えており、石油プラント、オイルライン、ケイカル、給水給湯などさまざまな業界において高いニーズを得ている。

●ベトナム進出の目的

これまで日本国内に於いてステンレス製のフレキシブルチューブや伸縮管、キャンパス製ジャバラの製造販売してきた。現在、ドンナイ省にてベトナム国内で供給していく『第一ステップ』、次に日本向けの製造を『第二ステップ』と進出計画をし、近々ベトナム国内向けのステンレス製フレキシブルチューブの製造販売を開始を目論んでいる。

●感性の違い

十数年前から韓国、タイ、フィリピン、中国と生産拠点及び調達を探し回ってきたが、ここ数年はコストの点から中国一本になっていた。しかし安定した生産がなかなか思うようにいかず困っており、ベトナム進出にたどり着いたという。最初は中国よりもコストが安いことから期待も大きく、業務拡大のチャンスと捉えてきた。しかし残念なことに、彼らは決めたことをやらない、出来ていた事を勝手にやらなくなるなど…。その期待は思うようにはいかなかった。日本国内で販売する品質に対する基準はもちろん感性までもがそもそも違っているということがよく分かるようになるとあきらめ気味になることもあるという。今尚、そんなことを感じさせられている。

●ビジネススタイルの違い

とある下請け業者や継手のメーカーを探しにホーチミン近郊を視察した時のこと。驚くことにどこへ行ってもすぐに資本提供を求められた。今まで日本国内では考えられないことだったので大変に驚きを感じたという。

現状のラインにある製品を購入する場合には、問題がないのだが、例えば少し形を加えたい、サイズを少し変えたいと要望を出そうものなら、必ずといっていいほど、資本提供の協力を求められます。また、こちらの希望数や物量が多い時にも同様に要求された。その理由は工場設備において溶接機を増やすとか設備を増強するといった説明なのだが、どこでも同様の要求があるので、これはベトナム人のビジネススタイルなのかと思ってしまう。

●優秀なベトナム人に期待

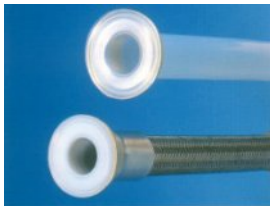
弊社の日本国内にある工場では数年前からベトナム人の研修生が来ており、既にベトナムへ帰国しています。一期生は3年が経ち、日本人よりも優秀ではないかと思われされる優秀な研修生は少なくない。大切なことは研修中の勤務態度や能力は、個人差はあるものきちんと教えることにより、育てることはできることがわかった。先にも説明しておりますが安定した供給を今後実現していくために、まずは中国とベトナムの2本立てで進行していくこと

ホーチミンで工場の建設をしている。

日本の品質に対する感性やコンプライアンスを実行できる人材は、日本の本社工場で研修させ、ベトナムへ帰国した元研修生がおり、ベトナムで拠点を作って行くには弊社の製造に対する感性や日本人の気質を知っている彼らと共に行っていくことが何よりも近道だと確信し期待しています。

●今後の展望

現在、困っているのはステンレスの薄板、パイプ、継手類の供給が日本から中国頼みで、ベトナム国内での調達に目的が立っていないことである。出来ることなら、ベトナム人がベトナムの材料を使い製造する、日本品質レベルの『Made in Vietnam』製品を販売したいと考えている。これにはコストの問題もあるが材料の調達が大きな課題でもある。今後、発展目覚ましいベトナム国内での需要に大きな期待をし、勤勉で器用なベトナム人と力を合わせて日本品質のベトナム製品製造を実現していきたいと願っている。



パーフェル工具



超高压用特殊SUSブレード